

起工式を迎えるリニア長野県駅

～ 駅設置に向け次のステージへ～

令和4年12月22日、リニア長野県駅の工事安全祈願祭・起工式が執行された。平成23（2011）年JR東海が全額自己負担により中間駅を建設する、と表明して以来十年余、長野県内にリニア新幹線駅が実現する新たな段階に至った。

1. 起工式を迎えるリニア長野駅

工事説明会資料によると、中央新幹線長野県駅（仮称）新設工事は、工事期間 令和3年6月25日～同8年3月31日、工事延長 約950m。先行着手工事として①土曾川橋梁、②新戸川付替え、③竜西一貫水路付替えに取り掛かる（頁下図参照）。

①土曾川橋梁は、長野県駅のうち、土曾川と国道153号を跨ぐ約120mの橋梁部分で、3つの橋脚（ピア）で構成される。まずは橋脚の基礎をニューマチックケーソン工法により地盤を所定の深さまで掘削し、そこに橋脚基礎を設置していく。

②新戸川付替えは、現状の川筋をリニア本線と直角に交差するよう付け替えるもので、開渠部分とリニア本線の下を通る暗渠部分があり、JR東海施工と県施工とに分かれる。

③竜西一貫水路付替えは、現状の水路の高さをリニア本線が通過することになるため、水路を本線の下にサイフォンにより通すもの。非灌漑期の今冬に一貫水路を迂回して設置（仮切回し）し、灌漑期を含む通年でサイフォン設置工事を進められるようにする。

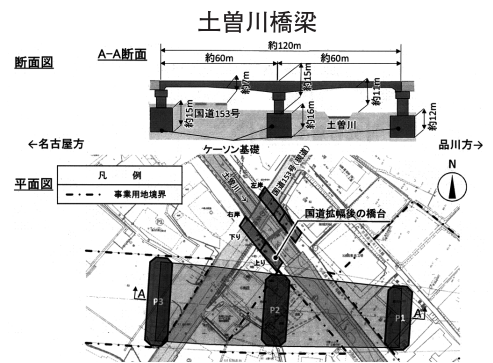
2. 関連工事も注目

以上の3箇所を始めとする工事設置ヤードの周囲には仮囲いが設置される。移転が進んだ結果更地が広がっているが、間もなく辺りは違った光景が広がるようになると思われる。

また、この駅施工ヤードから土曾川沿い工事ヤードとの間を作業用トンネルで結ばれる。この施工ヤード造成や作業用トンネル掘削工事、その後の本線トンネル掘削工事（シールド工法）が順次進められ、（工事期間令和3年4月1日～同8年8月31日）も発表されている。これについても注目したい。



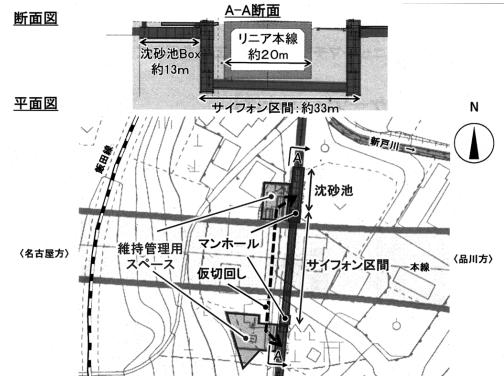
リニア長野県駅起工式（飯田市提供）



JR東海工事説明会資料より（以下同じ）



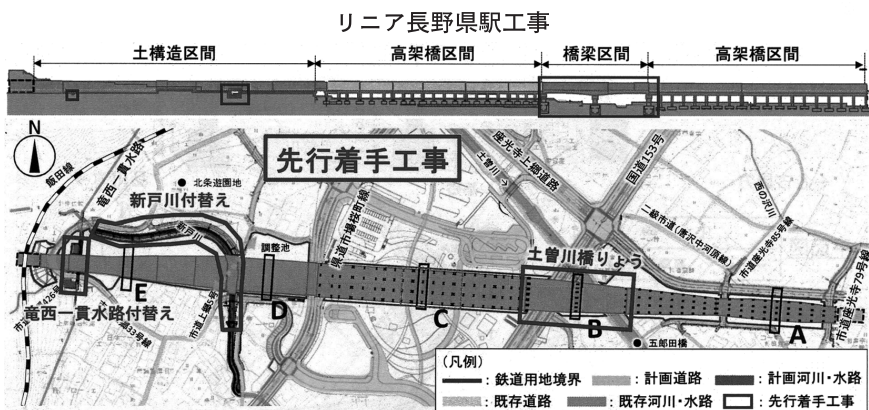
竜西一貫水路付替え



風越山トンネル（上郷）工区



JR東海工事説明会資料より（部分）



3.他のリニア駅の状況は

長野県駅着工に因んで他のリニア駅の現況について概略を報告する。以下については、現場で事業者等から説明を受けておらず、あくまで現場を見た限りでの記述となる。

■品川駅

品川駅は現在の品川駅舎並びに東海道新幹線等の線路の地下に設置される。品川駅の新幹線線路下を掘削してリニア駅を設置するための空間が造られているのであるが、新幹線車内からはこれと言って目を引くものはなく、駅周辺にも大規模な施工ヤードが見られるようなことはない。

ただ、品川駅の3工区のうち神奈川県寄りの非開削工区では、品川駅東側の区道4車線のうち2車線を通行止めにしてその下を掘削している。掘削作業は勿論見ることはできないが、工事関係者や車両の出入りが見られる。

■神奈川県駅

令和元年11月に起工式執行。本年5月には工事現場が報道陣に公開されている。計画では本年度中に地下30mまでの開削作業を終わらせる予定（日経Web）で、その後駅の構造体を造り上げていくという。工事終了後は埋め戻され後に広大な広場ができる。

今月の訪問では、外からは工事の様子は窺い知れないが駅開削部の周辺に土嚢が高く積み重ねられて発生土を仮置きしているように見える。

JR横浜線・京王線橋本駅に面する通り沿いには、リニア駅工事ヤードの仮囲いに近隣の美大（女子美、多摩美、東京造形他）の学生により製作されたリニアをモチーフとしたイラストがあしらわれている。橋本駅を中心として相模原や東京都多摩地区が大学の多いまちということを改めて実感する。

■山梨県駅

駅予定地は、以前と変わらず田圃や畑が広がっており、何も変わっていないように見える。リニア駅予定地の西側鎌田川左岸のほぼリニア本線上と思われる堤防の辺りで工事が見られたが、リニア工事との関連は不明。

山梨県内で進められている新山梨環状道路建設は、本年11月19日東部区間（事業担当：山梨県）の甲府市西下条町～落合町間1.6kmが開通した。これで同道路南部区間の先線が中央自動車道を潜り、石和町方面へと延伸。リニア駅と繋げ甲府市とその周辺を取り囲む構想の新山梨環状道路が一步進んだことになる。

リニア駅予定地から車で10分程のところに山梨大学医学部付属病院がある。リニアが開通すれば、飯田から最も近い大学病院となるのでは。

■岐阜県駅

岐阜県駅は、令和3年11月にトンネル崩落事故を受けて駅工事の起工式が延期（本年6月に挙行）となったが、準備工事は着手。県道410号から東側（東工区）が先行して施工されている。

現場は仮囲いで囲まれ、駅予定地から本線や車両基地と結ぶ引き込み線が通る箇所の開削工事が進められている。（2022年3月No.516を参照下さい）

■名古屋駅

リニア名古屋駅は東海道新幹線等のホームとほぼ直交して地下に造られる。地下駅の上には建物を置かず広場とするため、名古屋駅の東西はビル等が撤去され、広大な更地ができています。

本年11月時点では、駅東側の地上構造物撤去作業もほぼ終了しており、地中連続壁の作業に移る、若しくは取り掛かっているものとみられる。（2022年8月No.521 参照）

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）



品川駅前の非開削工区
品川駅の3工区



（JR東海環境保全計画書より）



神奈川県駅の仮囲いと土嚢の山



山梨県駅予定地から西方を望む



JR美乃坂本駅から見る岐阜県駅工事現場



名古屋市中村区 仮囲いと工事プラント